

氏名	海瀬 聖仁
学位の種類	博士(歯学)
学位授与番号	第197号
学位授与の日付	2015年2月5日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(論文提出によるもの)
学位論文題目	松本歯科大学における歯周病学模型実習に対する学生評価の解析と今後への展望
指導教員	(主) 教授 吉成伸夫
論文審査委員	主査 教授 藤井健男 副査 教授 宇田川信之 副査 教授 吉田明弘

学位論文の内容の要旨

松本歯科大学第4学年の学生に実施している歯周病学模型実習における、実習状況の把握、実習内容の再考と改善のため、2007年からの7年間のアンケート調査の内容、および分析結果を模型実習の概要とともに解析した。

アンケート項目は、歯科保存学講座で独自に作成した13項目であった。各項目は回答を5段階方式で評価し、上位2段階が占める割合を満足割合、下位2段階を不満足割合とした。また、不満足度得点を算出し、これを指標として全項目間の相関関係を検討、さらに、学生数との相関関係を検討した。統計学的分析は、Pearsonの相関係数の順位差検定を用いた。

実習環境である班分け、座席、デモ机に関しては、学生数が多い年度ほど不満足割合が多く、デモが見づらい、インストラクターの指導が行き届かないなどの不満足な感想が多かったが、学生数が減少した2013年度では減少した。実習器材項目である模型の使いやすさにおいては、2007年～2013年度のすべてにおいて、満足割合が良好であったが、2010年度より、さらに不満足割合が減少した。これは、同年度より模型を改善したことによるものと考えられる。インストラクターに関しては2007年～2013年度、全項目(デモ、指導、指導レベル)において、満足割合が50.0%を超えていたため、指導レベルは適切であったと思われる。実習内容に関するビデオデモの項目においては、2007年～2011年度において、不満足割合が高かったが、2012年度で満足割合の増加が見られた。これは、実習中に新たなビデオを追加して流す改善をした結果と思われる。

全項目間の相関では、「自分の座席の位置」と「実習帳」の相関係数が0.878、「ビデオデモ」の相関係数が0.818で有意な相関が認められた。学生数が減少することにより、自分の座席の周囲にゆとりができ、インストラクターの指導がより学生に行き届き、学生も実習に集中して参加できるようになり、学生自身が、実習帳やビデオデモの内容を理解するよう努めたためだと考えられる。また、「模型」と「実習帳」の相関係数が0.836、「模型」と「ビデオデモ」の相関係数が0.842で有意な相関が認められた。この理由として、模型構造を改善することにより「模型」への満足度が高くなり、学生の「模型」への扱い方への理解が深まった結果、実習帳、ビデオデモをより理解して有効活用できたためと考えられた。インストラクター間では、「インストラクターのデモ」と「インストラクターの指導」の相関係数が0.874、また、「インストラクターのレベル」の相関係数は0.949で強い相関が認められた。「インストラクターの指導」と「インストラ

クターのレベル」でも相関係数が 0.898 で有意な相関が認められた。さらに、「インストラクターのレベル」と「実習帳」の相関係数が 0.770 で有意な相関が認められた。インストラクターの教育レベルが上がると同時に、学生に対するデモ、指導の教育レベルも上げることができ、学生の理解度が上がることにより、実習帳を有効活用できたと考えられた。

研究期間中、学生数が大きく変動したため、学生数と各アンケート項目の不満足度得点の相関を検討したところ、「自分の座席の位置」の項目が相関係数 0.915 で、最も学生数と有意な相関が認められた。さらに、「実習帳」、「ビデオデモ」においても有意な相関が認められた。また、「デモ機の位置」、「模型」、「OSCE 実習」においては、統計学的に有意ではなかったが、学生数が増えると不満足度得点が高くなる傾向がみられた。これらのことから、学生数が、実習環境、実習内容に大きく影響していると考えられた。どのような形態の講義、実習においても、常に教育方法の妥当性の評価、問題点の抽出を行うことは必須であり、その一つの手法として、学生を対象としたアンケート調査は有用な方略であると示唆された。

学位論文審査の結果の要旨

学位申請論文は、歯学教育における基盤的臨床教育である模型実習の設計について、7年間わたる模型実習のあり方を学生アンケート結果の学生評価解析をもとに検討したものである。

本論文は、学生数が実習環境、実習内容へ大きく影響していること、学生アンケート調査は教育手法の工夫と改善に有力な方略であることを明確に示し、適切な引用文献を用いた考察と結論から、今後の歯学教育の進歩に大きく寄与する論文であると判定した。

学力の確認の結果の要旨

2014年12月16日、実習館2Fセミナールームにて本学位申請者・主指導（紹介）教員・主査および副査2名にて、学位論文審査と最終審査（口頭試問）が行われた。

質問事項は以下のとおりである。

- 1) 多変量解析による検討について
 - 2) 他大学の模型基礎実習についての報告との比較
 - 3) 実習動線、学生グループ化の影響について
 - 4) 実習項目による学生評価のバラツキについて
 - 5) 本研究から得られた結論と今後の実習への展開について
- 上記の質問に対し、申請者は明確に回答した。

以上より、本学位審査会は、申請者は博士（歯学）としての十分な専門知識を有するものと認め、最終試験を合格と判定した。